

LEEWARD

No.25

2018 年度



目次

1. 主将から
2. 新主将から
3. 監督から
4. 四年生から
5. 部員紹介
6. レース結果報告
7. 来年度への意気込み
8. 2018 年度収支報告
9. 2019 年度予算
10. 来年度スケジュール
11. 編集後記

1. 主将から

「主将から」

53期 牧 祥巨

みなさん、お久しぶりです。今年の10月まで室工ヨット部の主将を務めさせていただきました、53期の牧です。私は昨年9月のインカレ団体戦予選北海道大会のあと小俣前主将から引き継ぎ一年間主将としてやってまいりました。昨年の団体戦予選の敗退をへて今年こそは本選に出場する気でいたのですが、結果はブログなどご覧のように北海道大学に大差をつけられての大敗に終わってしまいました。これも私の部活運営する能力が足りなかったことや他大学に比べて技術面や知識の不足などが挙げられると思います。来年こそは青山新主将を中心に北海道の代表としてインカレ団体戦本選に出場して欲しいと思います。また次は室工ヨット部OBとして自覚を持って現役にできるだけサポートしていきたいと思います。

また今年は監督やコーチ、OB・OG会といった今まで室工ヨット部になかったものの導入がされました。これもOB・OGのみなさまのご協力があったからこそだと思います。本当にありがとうございました。今年は西嶋新監督のもと複数のコーチ陣の方々に大いにサポートをしていただきました。室蘭から遠く離れているにもかかわらず練習に足を運んでいただき、練習メニューや技術面、部活全体の事などいろんな面でサポートしていただきました。導入1年目ということもあり、選手からも監督・コーチ陣からもうまくいかないことなども多少はありましたが、今年の実験を生かし改善できることを改善していけば、今よりもより良い部活動ができると思います。これからはOB・OG会などを通してお互いにより親密にかかわっていければと思います。

最後になりましたが、今年一年間室工ヨット部の活動にご協力していただき本当にありがとうございました。現役はこれからも一生懸命活動していくのでサポートしていただけたらと思います。

2. 新主将から

「勝てるヨット部へ」

54期 青山 和輝

皆様、こんにちは。54期主将の青山和輝です。現在ヨット部は3年生6人、2年生2人、1年生5人、マネージャー3人の計16人で活動しています。私たちの目標としては、団体戦予選優勝、団体戦本選ベスト15です。その目標達成のために西嶋監督を始めとしたOB・OGの方々のお力をお借りして練習しています。

私が特に主将という立場になってから思うことがあります。それは、後悔をしたくないということです。これは小さいところでいうと、例えば、レース中のコース引きであったり、動作のミスであったりです。ヨットレースをしたことがあるなら、小さいミスによる後悔はあると思います。それがレース結果につながるからです。また、大きいところでいうと、部活の運営です。日々の練習メニューや、レースの配艇などがそれになります。レースが終わってから、もっとこういう練習をしておけばよかった、と極力思いたくありません。こういう後悔をしたくないので、私はその時その時の判断を後のことも考えてベストなものにしたいと強く思っています。

去年から監督制度が始まり、西嶋監督を始めコーチのOB・OGの方々のサポートが始まりました。今のヨット部には勝とうと思えば勝てる体制が整いつつあります。53期の代、特に前主将の牧さんはこの環境を作るのに苦労したと思います。感謝しています。

そして55期・56期の後輩たちには、どんどん先輩たちを脅かす存在になってほしいと思っています。まずはヨットを楽しんでほしいです。地道ですが、着実にみんなのヨットの腕は上がっていています。そして今後レースをやっていくうちに速くなりたい、勝ちたいと思う時が必ず来るはずです。その時は先輩を頼ってもいいですし、自分の頭で考えるのも大事です。監督制度ができ昔よりは負担は大きくなりましたが、その分より大きなものを得られるでしょう。後輩の成長がこれから先非常に楽しみです。

最後に、監督やコーチの方にはこれからもご迷惑をおかけすることがあると思いますが、アドバイスやコーチングの方をよろしく願いいたします。いつも応援してくださっている方々ありがとうございます。これからも室蘭工業大学ヨット部をよろしく願いいたします。

3. 監督から

始めに

2018年4月より室蘭工業大学ヨット部の監督を務めております西嶋です。

まずは、2018年も当校ヨット部に支援とご声援を下さいました全てのOB・OGに感謝申し上げます。OB・OGの皆さんにも、伝えたい思いはたくさんございますが、ここでは、私自身の今年の反省と2019年のインカレ本戦出場に向けて努力している後輩たちへのメッセージを書きたいと思います。

今年の反省

今年度は、監督に就任して初めての年であり、振り返るとこれまで定期的に部活を見てきた時よりも「勝つ」ということの難しさを感じた年でした。

4月からの就任ということもあり、シーズンインで大会までの期間も短く、早く勝利に近づけるようにと、すぐに答えを与えてしまうことが多かったように感じます。今思うと、本当の知識と経験というものは、自分で苦しんで考え出した答えから定着していくものであり、選手の成長の機会を奪っていたのかもしれないと反省しております。

今年度を持って選手を引退した4年生のみんなには、本当に申し訳ない。もっと伝えたいこともあるが、それはまた今度お酒を飲みながら語らしましょう。

2019年のインカレに向けて

我々ヨット部の2019年の目標は、「**インカレ本戦出場**」です。これだけは、みんなの共通意識としてしっかり持ちましょう。そして、これを達成するためには、チームとしてのパフォーマンスを向上させていく必要があります。では、パフォーマンスとはなんでしょう。私は、以下のように考えます。

「パフォーマンス = 結果 + 振る舞い」

上記の結果の部分は、レースが終わってみないとわからない要素です。なので、我々はこの「振る舞い」の部分を変えていく必要があるのかなと思います。「振る舞い」というだけでは、よくわからないかもしれませんが、これはスキルを磨くための努力だけではなく、ヨット部の運営面等、チームとしての全てについてだと思えます。続きはまた別の機会にでも語ります。

このように偉そうな綺麗事だけ語っても成長できないのはわかっています（私の悪い癖ですが）。なので、これからのインカレまでの期間、現役の選手たちは、私と一緒にたくさん悩みながら少しずつ成長しましょう。悩みながら実践して、トライアンドエラーの繰り返しです。まずは、なんかしよう！もちろんこれまで通り楽しみながらやることも忘れずに行こう！

それでは、今年も引き続きよろしくお願ひします。

4. 四年生から

「4年生から」

53期 牧 祥巨

皆さんお久しぶりです、今年の10月までヨット部の主将を務めさせていただきました53期の牧です。今年の目標であるインカレ団体戦予選優勝を目指して一年間活動してまいりましたが、結果は皆さんもブログなどでご存じの通り北海道大学に大差をつけられての大敗という結果になりました。このような結果になってしまったのも私の部活の運営力不足や、技術面・知識面の不足などが原因だと思われます。今後はなぜ今年負けてしまったかを後輩などと一緒に研究して来年にはインカレ団体戦の北海道代表として行ってほしいと思っています。

最後の引退試合はこのような結果になってしまいましたが、私は4年間ヨット部という特殊な部活動を続けてとてもよかったと思っています。ヨット部は毎週土日と長期休暇を使って活動してきました。時間も朝早くから活動し、終わるのは日が落ちるまでとほぼ一日がかりでやり、長期休暇ではこの生活がほぼ毎日続きます。ヨット部以外の友人などは自由に遊んだり、旅行に行ったりなどをして最初はいいなとか自分も遊びたいなと思っていました。ですがみんなが遊んですごしている中4年間ヨット部でヨットに集中しやり続けたことのほうが今は充実した生活を送ってきたと自信をもって言えます。最後の学生生活を遊んで過ごしたほうが楽しく楽だと思えます。それに比べてヨット部の生活はきつく、自由の時間も学年が上がるにつれて少なくなり、主将をやっていたころは常にヨット部のことを考えているくらいでした。結構厳しい生活でしたがこの経験を経て物事の考え方や、人との接し方、人とともにやっていくという難しさ、思っていることをどのように表現すればよいかなどまだまだたくさんの良い経験をすることができました。これは4年間なにもしないで過ごしてきた人には経験できないヨット部を4年間やってきた良い点だと思えます。

最後になりますが今年1年間OB・OGの皆さんにはご協力・ご支援していただきありがとうございました。これからは54期青山主将を中心に活動していくので今後ともよろしく願いいたします。

「ヨット部での財産」

53期 中西 紫織

ヨット部に入ってもう4年。いつからか私はこのヨット部での生活が終わるといったい何が自分に残るのだろうかと思いをながらすごしていました。

実際に引退を迎えたとき、『本気で熱くなる』ことが自分への財産なのだと思います。ヨット部での活動は、嫌というほどこのことを教えてくれていたのだと痛感しました。

本気で何かを続けることは熱意がいき、この熱意を持ち続けるのはなかなか大変なことです。それを続けるのに必要なのは同じものをもった仲間だと思います。すなわち本気になるには仲間が大切です。

現役のみなさん、幸い今のヨット部は人数がいます。一部少ない学年もありますが同期の数にも恵まれています。まずはこの仲間を大切にしてください。そしてその仲間と高めあってほしいと思います。誰かが動けば仲間がそれについていくことこそが本当の仲間だともいます。そんな仲間になれるように願っています。

毎週末朝から晩までヨット部で活動して、時には嫌になるときもあるがそれでも過ごしてきた4年間が終わったとき何も自分に残らないなんてことはもったいない！結果をたどえ残せなくてもヨット部にいてよかったと思えるよう過ごしてほしいです。

最後になりましたが、西嶋監督をはじめ新しくコーチという形でご指導いただいたOBの方々、役職関係なく室蘭や小樽まで来ていただき練習を見ていただいたOBの方、物品等の援助の形で支援いただいたOBの方々といったように本当にたくさんのOB・OGの方に支えていただきました。結果は不甲斐ないものとなってしまいましたが、数々の支援を下の代へと還元していきたいと思えます。本当にありがとうございました。

「4年目を終えて」

53期 大塚 樹

団体戦予選を終え、そのまま引退することになり、その後数か月はあまり実感のないまま過ごしてきました。そうしてそのうち、時間とともにだんだんと引退したという現実慣れていく感覚は何とも言えないものでした。

自分は現役生活を精いっぱい、真剣に過ごしてきた自信はあります。その中で様々なことを経験し、学んできたことは自分の中に蓄積されていることすべてだと思っています。

しかし、同じくらいまだもっとやれたのではないかという気持ちも残っているのです。

そして今、引退してヨット部の選手ではなくなりましたが、OBという新しい立場から自分はどうヨット部にかかわっていくのかを手探りで模索しているところです。(とはいえ、あと一年室蘭に拘束されるのでしばらくは在学OBなのですが)

ヨット部OB・OGの皆様、今後室蘭を出まして晴れて社会人になった暁には、歴代OB・OG方の末席を汚す身ではありますが、どうぞよろしく願いいたします。

「4年間で」

53期 玉置 理奈

まず、4年間のお礼を言わせていただきたいと思います。お礼を言いたい人が多すぎるので、全員書ききることができませんが、まず、マネージャーだった50期の相澤さん、51期のかおりさんにはこの場をかりてお礼を言わせていただきます。相澤さんが最初に小樽にごはんを作りに行かなければ私も行かなくていいものだと思って、4年間行かなかったかもしれません。選手と遠征の苦労を共有することもできず、部員として中途半端なままでした。51期のかおりさんは、相澤さんが引退されて、上のマネージャーがいなくなってしまう不安だったときに戻ってきてくださいました。上級生にはなかなか言いづらかった、マネージャーとしてはこうしたいとか、部活こうした方がいいんじゃないとか、よく話し合っただけで同期のみなさんに話を持って行ってくれました。マネージャーも海に出られるようになったのはかおりさんのおかげです。

ほかには、後輩マネージャーの藤原華子です。最初は少し心配なこともありましたが、この3年間ですごく成長してくれました。4年間部活していて一番嬉しかったことかもしれません。3年目4年目、私が部活続けられたのは華子のおかげです。華子の明るさや、良い意味のうるささがとても楽しかったです。新しくマネージャーになった糸井、脇田と協力しあって、楽しんで良い部活をつくってほしいです。

そして同期です。一年生のとき、一度部活をやめる決心をしたとき、やっぱり続けようと思えたのは同期のおかげです。必死に止めてくれたわけでもなんでもありませんでしたが、一緒にいた時間が気持ちを変えてくれました。感謝しています。マネージャーの佐藤は、こうした方がいいかなと思うことがあってもすぐに行動にできない決断力のない私に、いいんじゃない、といつも言ってくれ、行動に移すことができました。ずっと愚痴を聞き続けてくれたのは中西で、部活を支え、マネージャーがやりたい事を一番理解してくれたのは牧で、大塚のふとしたときの一言は意外と響いたりしました。本当にみんないてくれてよかったです。

私の4年間は何をやったらいいか模索し続けた4年間でした。選手が強くなるサポートとしてできることはまだまだあったと思いますし、後悔している部分もない訳ではありません。ですが私の4年間は終わってしまいました。これからは後輩たちに自分の経験を伝え、彼らのやりたい事をサポートできるようなOGになりたいです。

「現役に向けて」

53期 佐藤 直紀

こんにちは、今年ヨット部を引退しましたマネージャーの佐藤です。

私たち四年生は今年をもって引退となりました。10月から新体制となり3年生が主体となって日々の活動に取り組んでいることだと思います。そんな現役に向けてこの場を借りて一言伝えたいと思います。

一番伝えたいことは「時間を大切に」ということです。よく他の先輩の方々からも言われる言葉ではあると思いますが、あえて重ねてもう一度伝えたいと思います。

もう一度伝える理由としては、現役の皆さんが認識しているより時間はあっという間に過ぎていき、その時間は帰ってこないということをこの一年で体感したからです。特に三年生は引退まであと一年を切り、ヨット部現役としての時間は刻々と過ぎていきます。ぜひ現役の皆さんにはこれらのことを覚えておいて欲しいと思います。

次にマネージャーにも一言。自分が経験してきて感じたことですがマネージャーの仕事は正直つらいです。特に一人でマネージャーの仕事をしていたときにさらにつらく感じました。

幸いにも今はマネージャーが三人おり、一人当たりの負担は少なくなっていると思います。それでも大変なことやつらいことが出てくるとかだと思います。そのようなときは互いに支え合い頑張っ乗り越ってください。小樽遠征時、選手はもちろんですがマネージャーも精神的、肉体的にもつらくなると思うので頑張ってください。できる限り応援に行きたいと思います。

来年はまだマネージャーのOB・OGが室蘭に残っているので何かあれば頼ってください。

最後に、頼りない先輩であまり力になれませんでした。皆さんの先輩としてヨット部にいさせてくれてありがとうございました。

これから皆さんの努力が報われ、活躍することを願っています。

5. 部員紹介

53 期



牧 祥巨(スキッパー)



中西 紫織(スキッパー)



大塚 樹(クルー)



玉置 理奈(マネージャー)



佐藤 直紀(マネージャー)

54 期



青山和輝 (クルー)



古川孔晴 (クルー)



會田誠人 (クルー)



山城琢海 (クルー)



瀬尾涼太 (スキッパー)



原田祥五 (スキッパー)



藤原華子(マネージャー)



脇田彩加(マネージャー)



糸井遼太郎 (マネージャー)

55 期



岡部隼輝 (スキッパー)



柏野豪久 (クルー)

56 期



山本涼司 (スキッパー)



浅川智也 (クルー)



佐藤涼太(クルー)



竹内彰汰(スキッパー)



菅原大地 (クルー)

6. レース結果報告

春季レース

| 所属 | Sail No. | ヘルムス | クルー | 個人成績 | | 1R | | | 2R | | | 3R | | | 4R | | | 5R | | | 6R | | |
|--------|----------|------|----------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|----|-----|-----|----|-----|-----|----|
| | | | | 点数 | 順位 | 着順 | 確順 | 得点 | 着順 | 確順 | 得点 | 着順 | 確順 | 得点 | 着順 | 確順 | 得点 | 着順 | 確順 | 得点 | 着順 | 確順 | 得点 |
| 北海道大学 | 4161 | 沖津 | 大野/野田 | 50 | 9 | 2 | UFD | 19 | 4 | OCS | 19 | 2 | 2 | 2 | 14 | 14 | 14 | 10 | 10 | 10 | 5 | 5 | 5 |
| | 4290 | 林 | 渡邊 | 83 | 17 | 9 | UFD | 19 | 5 | OCS | 19 | 7 | 7 | 7 | DNC | RET | 19 | DNC | RET | 19 | DNC | DNC | 19 |
| | 4075 | 植田 | 斎藤/北原 | 27 | 2 | 10 | 1 | 1 | DNC | OCS | 19 | DNC | DNC | 19 | 4 | 4 | 4 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 |
| | 3993 | 立花 | 小林 | 52 | 10 | 16 | 4 | 4 | DNC | RET | 19 | DNC | RET | 19 | 13 | 13 | 13 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 |
| | 3793 | 尾花 | 堤 | 66 | 14 | DNC | RET | 19 | DNC | RET | 19 | DNC | RET | 19 | 11 | 11 | 11 | 7 | 7 | 7 | 10 | 10 | 10 |
| | 3789 | 大西 | 村上 | 34 | 4 | 5 | UFD | 19 | 2 | OCS | 19 | 4 | 4 | 4 | 2 | 2 | 2 | 3 | 3 | 3 | 6 | 6 | 6 |
| | 3993 | 湯川 | 和泉 | 60 | 12 | 11 | UFD | 19 | 9 | 5 | 5 | 8 | 8 | 8 | 15 | 15 | 15 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 |
| | 3793 | 高木 | 小倉 | 48 | 8 | 14 | UFD | 19 | 8 | 4 | 4 | 9 | 9 | 9 | 10 | 10 | 10 | 12 | 12 | 12 | 13 | 13 | 13 |
| 3789 | 川端 | 三ツ田 | 84 | 18 | DNC | UFD | 19 | DNC | RET | 19 | DNC | RET | 19 | 17 | 17 | 17 | 14 | 14 | 14 | 15 | 15 | 15 | |
| 小樽商科大学 | 4884 | 堀 | 飯田/佐藤 | 13 | 1 | 15 | 3 | 3 | 7 | 3 | 3 | 1 | 1 | 1 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 1 | 1 | 1 |
| | 4531 | 河村桂 | 橋本/紅露 | 31 | 3 | 4 | UFD | 19 | 1 | 1 | 1 | 3 | 3 | 3 | 7 | 7 | 7 | 9 | 9 | 9 | 11 | 11 | 11 |
| | 4378 | 橋本 | 角田/秋山 | 58 | 11 | 8 | UFD | 19 | 6 | OCS | 19 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 13 | 13 | 13 | 14 | 14 | 14 |
| | 4072 | 村上 | 秋山/角田 | 71 | 15 | 12 | 2 | 2 | DNC | RET | 19 | DNC | RET | 19 | 16 | 16 | 16 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 |
| 室蘭工業大学 | 3545 | 中西 | 青山 | 61 | 13 | 3 | UFD | 19 | DNC | RET | 19 | DNC | RET | 19 | 8 | 8 | 8 | 6 | 6 | 6 | 9 | 9 | 9 |
| | 3669 | 原田 | 古川 | 77 | 16 | 7 | UFD | 19 | DNC | OCS | 19 | DNC | DNC | 19 | 12 | 12 | 12 | 15 | 15 | 15 | 12 | 12 | 12 |
| | 3805 | 牧 | 大塚 | 48 | 7 | 13 | UFD | 19 | DNC | RET | 19 | DNC | RET | 19 | 3 | 3 | 3 | 4 | 4 | 4 | 3 | 3 | 3 |
| | 4591 | 瀬尾 | 會田 | 34 | 5 | 6 | UFD | 19 | 3 | 2 | 2 | 5 | 5 | 5 | 9 | 9 | 9 | 11 | 11 | 11 | 7 | 7 | 7 |
| | 4591 | 前田 | 神田/岡部/柏野 | 45 | 6 | 1 | UFD | 19 | DNC | RET | 19 | DNC | DNC | 19 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 4 | 4 | 4 |

「四年目の春季レース」

53期 大塚 樹

ヨット部に入部してから様々な大会に参加してきました。ほとんどは主に小樽で毎年開催されるレースでしたが、その時々によってメンバーや自分自身のモチベーションの変化があり、同じ場所でも毎回違うレースに出ている気分でした。

その中でも、春季大会は毎回きまって新しいスタートというイメージをもって、臨んだものでした。毎年一年で最初の小樽でのレースは今後の課題や今の自分の実力をはっきり自覚でき、自分の立ち位置をはっきりさせてくれるものでした。

しかし、2018年の小樽で行われた春季レースは、例年とは少し違ったモチベーションをもって挑んだレースでした。

というのも四年目になり、自分たちが先頭に立って戦っていくことへの緊張と先輩としての姿勢をつかみかねていたからです。

そんな気持ちで臨んだレースは始まってみれば久しぶりの小樽の広い海で、かつ同じ四年目とのペアということもあり楽しくてあっという間でした。

そして、先輩として、選手としての姿勢は、自分が楽しんで乗り続けることなのではないかと思いました。このレースで個人的にとっても大きな収穫だったと思います。

全道選手権

| 所属 | Sail No. | ヘルムス | クルー | 個人成績 | | 1R | | |
|--------|-------------|-------------|-------------|-----------|----------|------------|------------|-----------|
| | | | | 点数 | 順位 | 着順 | 確順 | 得点 |
| 北海道大学 | 4557 | 沖津 | 和泉 | 17 | 7 | DNC | DNF | 17 |
| | 4290 | 植田 | 上村 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 4075 | 林 | 三ツ田 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 3993 | 尾花 | 小倉 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| | 3793 | 立花 | 小林 | 17 | 7 | DNC | DNF | 17 |
| | 3789 | 大西 | 小野 | 17 | 7 | DNC | DNF | 17 |
| | 4161 | 福田 | 鈴木 | 17 | 7 | DNC | DNF | 17 |
| 小樽商科大学 | 3878 | 堀 | 高橋/佐藤 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| | 4531 | 河村 | 飯田/佐藤 | 17 | 7 | DNC | DNF | 17 |
| | 4376 | 荒井 | 橋本 | 17 | 7 | DNC | DNF | 17 |
| | 4072 | 村上 | 角田 | 17 | 7 | DNC | DNF | 17 |
| | 4067 | 作田 | 秋山 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 室蘭工業大学 | 3669 | 牧祥巨 | 大塚樹 | 17 | 7 | DNC | DNF | 17 |
| | 4591 | 中西紫織 | 青山和樹 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| | 3545 | 瀬尾涼太 | 會田誠人 | 17 | 7 | DNC | DNF | 17 |
| | 3805 | 原田祥五 | 古川孔晴 | 17 | 7 | DNC | DNF | 17 |

「全道選手権を通じて」

54期 瀬尾 涼太

全道選手権は結果を見てわかるように、風に恵まれずレースは成立しませんでした。スタート直後にあった風は次第になくなり、フリーまで行くと無風に近い状態でした。しかしそれでも先頭艇は風を掴むことで、微風の中でも艇速を保ったまま走っていました。そのとき私はまだまだ技術やレース経験が足りていないと感じる一方で、470という競技の奥深さを感じました。

私は三年生にもなり、スキッパーとして様々なコンディションの海で様々な練習をしました。しかしそれでも船に乗せられているという感覚があり、なかなか自分のしたい走りというものをできていませんでした。その結果が今回の全道選手権で如実に表れました。全道を終えた段階では、自分たちの代のインカレ団戦まで一年以上ありますが、まったく余裕はないと感じました。今後の練習で470のことが少しでもわかるよう精進していきたいと全道選手権を通じて思いました。

インカレ個人戦予選

| 所属 | Sail No. | ヘルムス | クルー | 個人成績 | | 1R | | | 2R | | | 3R | | | 4R | | | 5R | | | 6R | | |
|--------|----------|------|-------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|-----|-----|----|-----|-----|----|
| | | | | 点数 | 順位 | 着順 | 確順 | 得点 | 着順 | 確順 | 得点 | 着順 | 確順 | 得点 | 着順 | 確順 | 得点 | 着順 | 確順 | 得点 | 着順 | 確順 | 得点 |
| 北海道大学 | 4161 | 沖津 | 和泉 | 16 | 2 | 4 | 4 | 4 | 2 | 2 | 2 | 4 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 5 | 5 | 5 | 4 | 4 | 4 |
| | 4290 | 植田 | 村上 | 6 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 3 | 3 | 3 |
| | 4075 | 林 | 三ツ田 | 28 | 6 | 2 | 2 | 2 | 3 | 3 | 3 | 7 | 6 | 6 | 4 | 4 | 4 | 6 | DNE | 17 | 2 | 2 | 2 |
| | 3993 | 尾花 | 小倉 | 20 | 4 | 3 | 3 | 3 | 5 | 5 | 5 | 2 | 2 | 2 | 13 | 13 | 13 | 3 | 3 | 3 | 7 | 7 | 7 |
| | 3793 | 立花 | 小林 | 53 | 12 | 14 | 14 | 14 | 13 | 13 | 13 | 13 | 12 | 12 | 8 | 8 | 8 | 10 | 9 | 9 | 11 | 11 | 11 |
| | 3789 | 大西 | 大野 | 51 | 11 | 12 | 12 | 12 | 14 | 14 | 14 | 11 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 11 | 10 | 10 | 9 | 9 | 9 |
| 小樽商科大学 | 4884 | 堀 | 高橋/佐藤 | 17 | 3 | 5 | 5 | 5 | 6 | 6 | 6 | 5 | 4 | 4 | 6 | 6 | 6 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 4531 | 河村 | 橋本 | 22 | 5 | 7 | 7 | 7 | 4 | 4 | 4 | 9 | 8 | 8 | 2 | 2 | 2 | 4 | 4 | 4 | 5 | 5 | 5 |
| | 4378 | 荒井 | 角田 | 56 | 13 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 14 | 13 | 13 | 12 | 12 | 12 | 12 | 11 | 11 | 13 | 13 | 13 |
| | 4072 | 村上 | 秋山 | 37 | 8 | 8 | 8 | 8 | 12 | 12 | 12 | 10 | 9 | 9 | 5 | 5 | 5 | 8 | 7 | 7 | 8 | 8 | 8 |
| 室蘭工業大学 | 3545 | 瀬尾 | 會田 | 66 | 14 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 3 | DSQ | 15 | 14 | 14 | 14 | DNC | RET | 15 | DNC | DNC | 15 |
| | 3669 | 牧 | 大塚 | 32 | 7 | 6 | 6 | 6 | 9 | 9 | 9 | 6 | 5 | 5 | 7 | 7 | 7 | 9 | 8 | 8 | 6 | 6 | 6 |
| | 3805 | 原田 | 古川 | 51 | 10 | 13 | 13 | 13 | 7 | 7 | 7 | 12 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 13 | 12 | 12 | 10 | 10 | 10 |
| | 4591 | 中西 | 青山 | 39 | 9 | 9 | 9 | 9 | 8 | 8 | 8 | 8 | 7 | 7 | 9 | 9 | 9 | 7 | 6 | 6 | 12 | 12 | 12 |

「インカレ個人戦予選」

54期 原田 祥五

インカレ個人戦予選には、同期の古川との3年生ペアで出場しました。春からこのペアでレースに出てきたのですが、まだペアでの情報収集能力は高いとは言えずコースやタック、ジャイブの選択ミスをしてしまい、結果は振るいませんでした。周囲の情報を集めている際に自艇の操船が疎かになってしまうこともあり、両立が課題であると感じました。またスタートで差をつけられてしまうと、その差を縮めることができずにレースが終わってしまうということも多かった様に思います。大学別で見ると、北大のトップ艇団が圧倒的でした。団体戦に向けて個人の技量はもちろんのこと、チームでの戦い方も身につけていかなければと強く感じたレースでした。

インカレ団体戦予選

| | | | | 団体成績 | | 個人成績 | | | 1R | | | 2R | | | 3R | | | 4R | | | 5R | | | 6R | | |
|--------|----------|------|-----|------|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 所属 | Sail No. | ヘルムス | クルー | 合計 | 順位 | 点数 | 順位 | 着順 | 確順 | 得点 | 着順 | 確順 | 得点 | 着順 | 確順 | 得点 | 着順 | 確順 | 得点 | 着順 | 確順 | 得点 | 着順 | 確順 | 得点 | |
| 北海道大学 | 4632 | 植田 | 村上 | 55 | 1 | 7 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 7 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 |
| | 4557 | 林 | 三ツ田 | | | 21 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 3 | 3 | 3 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 4 | 4 | 4 |
| | 4424 | 尾花 | 小倉 | | | 27 | 4 | 3 | 3 | 3 | 4 | 4 | 4 | 8 | 8 | 8 | 4 | 4 | 4 | 3 | 3 | 3 | 5 | 5 | 5 | |
| 小樽商科大学 | 4684 | 堀 | 高橋 | 94 | 2 | 37 | 6 | 7 | 7 | 7 | 5 | 5 | 5 | 7 | 7 | 7 | 3 | 3 | 3 | 8 | 8 | 8 | 7 | 7 | 7 | |
| | 4531 | 河村 | 橋本 | | | 18 | 2 | 6 | 6 | 6 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 4 | 4 | 4 | 1 | 1 | 1 | | |
| | 4376 | 村上 | 秋山 | | | 39 | 7 | 8 | 8 | 8 | 7 | 7 | 7 | 5 | 5 | 5 | 8 | 7 | 7 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | |
| 室蘭工業大学 | 3669 | 牧 | 浅川 | 122 | 3 | 40 | 8 | 5 | 5 | 5 | 6 | 6 | 6 | 4 | 4 | 4 | 7 | DSQ | 10 | 7 | 7 | 7 | 8 | 8 | 8 | |
| | 3545 | 中西 | 青山 | | | 29 | 5 | 4 | 4 | 4 | 8 | 8 | 8 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 2 | 2 | 2 | 3 | 3 | 3 | | |
| | 3805 | 原田 | 大塚 | | | 53 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 8 | 8 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | | |

「4年間の結果」

53期 中西 紫織

レースコンディションは全体を通して微風となり、最後の最後に中風（ブローでフルパワー）となりました。

微風コンディションではクローズで北大に艇速でおいていかれてしまいましたが、個人的にはフリーレグでブローの海面を走り、前に追いつくことはできました。中風コンディションになるとコース引きで北大との差が出てしまったと思います。今回は左に風が振れていた中しっかりと振れに合わせられた船が上位をはしりました。

結果としては惨敗となってしまいましたが、5R目ではフィニッシュレグで北大艇を上突破して順位を上げることができたり、フリーレグでブローを見極め前に追いついたり個人的には意地を見せるレースができました。その反面3位で最終レグを迎える際に、インシデントを起こして回転してしまったり、後ろの艇のカバーが甘く1位をとれたところを3位になってしまったり他艇との関係に弱さが出てしまいました。

レースではいかに落ちついて状況判断ができるかが大切だと改めて思い知らされました。落ち着いてレースを運ぶにはたくさんのパターンを入れておく必要があります。後輩たちは一回のレースで多くのものを吸収してたくさんの経験値を積んで、来年の団体戦に望んでほしいと思います。

祝津カップ

| 所属 | Sail No. | ヘルムス | クルー | 個人成績 | | 1R | | |
|--------|-------------|-------------|-------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| | | | | 点数 | 順位 | 着順 | 確順 | 得点 |
| 北海道大学 | 4094 | 大西 | 村上 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 4091 | 立花 | 小林 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| | 4046 | 尾花 | 小倉 | 13 | 12 | 12 | DNF | 13 |
| | 4290 | 福田 | 北原 | 11 | 1 | 11 | 11 | 11 |
| 小樽商科大学 | 3878 | 堀 | 高橋 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 |
| | 4072 | 河村 | 佐藤 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| | 3938 | 荒井 | 橋本 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| | 4154 | 村上 | 角田 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 4376 | 太田 | 飯田 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| 室蘭工業大学 | 3542 | 中西紫織 | 青山和樹 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | 3669 | 牧祥巨 | 大塚樹 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| | 4152 | 瀬尾涼太 | 會田誠人 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 |

7. 来年度への意気込み

「来年度の意気込み」

54期 會田 誠人

早いもので、もうすぐヨット部に入部してから3年が経ちます。自分たちが1年生の時、4年生しっかりしていて大人だな、3つ違うだけでこんなに違うのかと尊敬していました。その状態に今自分たちがなれているかと考えるとまだまだだと感じています。誰かに任せきりにするのではなく、みんなで協力してより良いヨット部にできるようにしていきたいと思います。

代替わりしてから私は、クルーからスキッパーに転向しました。これまでクルーをやってきたからこそできることがあると思います。その経験を生かして上達していき、一緒に乗るクルーにもアドバイスなど積極的にして、チーム全体としてレベルアップさせていきたいです。最終的には、今年の室工大ヨット部は強いなって周りから思われるような強いチームを作っていき、来年こそはインカレ団体戦の本戦に出場できるように頑張っていきたいと思います。

「来年度の自分」

55期 岡部 隼輝

今年初めてレースに参加しました。初めてのレースではうまくいかないことが多く、足りない部分に改めて気付くことが出来、その足りない部分を埋められるように今年は練習してきました。今年やってきたことを次の春に繋げる為にも冬季期間を利用し、知識面の強化を去年よりも積極的にしていこうと思います。次の1年生が入部してくると部内に先輩よりも後輩が多くなるので、今年多かった気を抜いている時間を減らし、自分のことばかりでなく、運営面や後輩により気をかけるようにし、団戦本戦出場を目指すチームの一員として力になりたいです。

「来年度への意気込み」

56期 山本 涼司

一年目の練習シーズンが終わりまして当初思っていたより大変な部活で少し驚きました。しかしそれ以上にディングーの魅力に心惹かれていきました。

ヨットは自然を相手にするスポーツであり、過去と同じ状況はないためそのときの状況に合わせて試行錯誤を繰り返すことが重要だと思います。私はまだ数えるほどしかヨットには乗っていませんが、これに他のスポーツにはない魅力を感じました。四年やそこらでディングーを極めることは不可能だと思いますが、ヨットの深みにはまってみたいと思いました。

具体的な目標をまだ立てられる様な所にはいませんが、今年の一年生はとても恵まれた代だと思っています。2年後3年後には全国での大会で経験を積み、最後の団体戦では全国の舞台上で一年全員でヨット部らしい楽しいレースをしたいです。そのために練習の一秒一秒を大事にし、多くの時間を積み重ねていこうと思います。

8. 2018 年度収支報告

| 収入 ^{※1} | | 金額 |
|--------------------|-------|------------|
| 項目 | | |
| 部費 | | 1,419,332 |
| 援助金 | OB/OG | 85,000 |
| | MSC | 60,000 |
| | 道連・学連 | 6,000 |
| アルバイト代 | | 50,000 |
| 雑費収入 ^{※2} | | 11,966 |
| 昨年繰越金 | | 764,349 |
| 合計 | | ¥2,396,647 |

注釈

本誌の収支決算の期間は 2017 年 10 月から 2018 年 12 月である。

※1 上記期間内に支払われた部費のみを記載

本年度以前の部費未払金

¥502,849(内現役：¥135,549)

※2 宴会時、宿泊費などの余剰金

※3 振込手数料含む

| 支出 | | 金額 |
|------------------------|------------|------------|
| 項目 | | |
| 負担金 ^{※3} | 全日学連分担金 | 40,432 |
| | MSC会費 | 60,000 |
| | JSAF会費 | 67,000 |
| | スポーツ保険料 | 54,361 |
| | 上下架 | 17,280 |
| | 艇体、セール計測 | 25,000 |
| 小計 | | 264,073 |
| 大会エントリー費 ^{※3} | 春季レース | 12,000 |
| | エンルムカップ | 47,000 |
| | 全道選手権 | 20,000 |
| | 個人戦予選 | 24,216 |
| | 団体戦予選 | 30,000 |
| | 祝津カップ(全3戦) | 30,000 |
| 小計 | | 163,216 |
| 470 | 修理 | 24,431 |
| | 備品 | 25,610 |
| | ブーム | 56,776 |
| | マスト | 272,592 |
| | スピネーカー | 235,656 |
| 小計 | | 615,065 |
| レスキュー | 修理 | 11,524 |
| | 備品 | 29,565 |
| | ガソリン代 | 174,459 |
| 小計 | | 215,548 |
| 練習関係費 | 移動費 | 266,622 |
| | 運搬費 | 107,000 |
| | 海洋センター利用費 | 11,400 |
| 小計 | | 385,022 |
| その他 | 備品 | 10,613 |
| | 消耗品 | 3,486 |
| | 雑費 | 44,033 |
| | ガス代 | 75,377 |
| | リワード代 | 30,400 |
| 小計 | | 153,296 |
| 合計 | | ¥1,796,220 |

| | |
|-------|----------|
| 翌年繰越金 | ¥600,427 |
|-------|----------|

援助金内訳

第1期 役田 徹 様

第40期 舘 雅春 様

第44期 西田 良平 様

第46期 坂 達夫 様

第50期 佐藤 徹三郎 様

室蘭セーリング協会 様

北海道セーリング連盟 様

上記の方々から 2018 年度に援助金をいただきました。

この他にも沢山の OB・OG さんにインカレ予選や追いコンなどでの物資の支援、日々の練習の指導をしていただきました。皆様のご支援ありがとうございました。

今後も一同一丸となりインカレ団体戦に向け日々精進していきますので、ご支援のほどよろしく申し上げます。

9. 2019 年度予算

| 収入 | |
|--------|------------|
| 項目 | 金額 |
| 部費 | 1,248,000 |
| 援助金 | 100,000 |
| アルバイト代 | 50,000 |
| 昨年繰越金 | 600,427 |
| 合計 | ¥1,998,427 |

※1 小樽合宿時は別途

| 支出 | | |
|-------------------|----------|------------|
| 項目 | | 金額 |
| 負担金 | 全日学連分担金 | 40,000 |
| | MSC会費 | 60,000 |
| | JSAF会費 | 91,000 |
| | スポーツ保険料 | 50,000 |
| | 上下架 | 17,000 |
| | 艇体、セール計測 | 25,000 |
| 小計 | | 283,000 |
| 大会エントリー費 | | 160,000 |
| 470 | 修理 | 10,000 |
| | 備品 | 20,000 |
| | マスト | 280,000 |
| | セール | 400,000 |
| 小計 | | 710,000 |
| レスキュー | 備品 | 30,000 |
| | ガソリン代 | 180,000 |
| 小計 | | 210,000 |
| 移動費 ^{※1} | | 60,000 |
| その他 | 備品 | 10,000 |
| | 消耗品 | 3,000 |
| | 雑費 | 5,000 |
| | ガス代 | 50,000 |
| | リワード代 | 30,000 |
| 小計 | | 98,000 |
| 合計 | | ¥1,521,000 |

10. 来年度スケジュール

4月

新入生歓迎会

9月

レセプション

インカレ団体戦予選

5月

春季レース

10月

秋季レース

6月

全道選手権

2月

冬期休業

追いコン

7月

インカレ個人戦予選

3月

室蘭練習開始

卒業式

11. 編集後記

「Leeward No.25」の編集を務めさせて頂いた柏野です。瀬尾、柏野、菅原の3人の編集員で製作しました。本誌の作成にあたりまして、原稿を書いてくださったOB・OGさんを始め部員の皆さん、本当にありがとうございました。編集の作業を行うことは初めてではありましたが、先輩方のアドバイスにより完成させる事が出来ました。しかしながら、2018年内にOB・OGの皆様方の手元にお渡しすることが出来なく残念な思いです。

時間がたつのは早いもので、もう入部してから1年半が経ちました。この部活に入ってから、普段の生活では決して経験出来ないような体験を数多く経験しました。特に今年は、西嶋監督のコーチングの開始や、北海道胆振東部地震が直撃した、かなり濃い1年だった感じがします。地震の方は、幸いなことに部内でケガ人は出ておりません。今現在もこの寒さに負けじと私たちはピンピンしております。また、これからは西嶋監督の全国出場の経験と豊富なヨットの知識をもって、室蘭工業大学ヨット部の成長を感じさせられるよう頑張りたいとおもっています。

最後になりますが今年1年室蘭工業大学ヨット部が活動できたのは海洋センター、エンルムマリーナの方々をはじめ、西嶋監督、OB・OGの皆様、そしてヨットに関わって頂いた全ての方々のご協力のおかげです。部員一同、皆様の支えを忘れることなく、全国大会を目指し邁進してまいりたいと思います。

今後とも室蘭工業大学ヨット部をよろしくお願い申し上げます。